

第 1 回 河南町総合教育会議 議事要旨

日 時 平成 28 年 8 月 25 日（木） 午後 3 時 00 分～午後 4 時 29 分

場 所 河南町役場 4 階 401 会議室

出席者 町長 武 田 勝 玄

町教育委員会 委員長 安 居 美千代

町教育委員会 委員長職務代理者 内 堀 裕 規

町教育委員会 委員 土 井 修 市

町教育委員会 委員 行 待 彩 子

町教育委員会 教育長 新 田 晃 之

（町職員出席者）

総務部 木矢部長、教・育部 久保部長、教育課 谷課長、こども 1 ばん課 湊課長

事務局：総合政策部 森田部長、秘書企画課 上野課長、秘書企画課 藤木課長補佐

1 開会

（藤木課長補佐）

会議の公開について確認・・・公開とする

傍聴者確認・・・1 名入場

配布資料確認

2 議事進行

（武田町長）

開会あいさつ

3 議題

○案件（1）河南町認定こども園等整備基本計画（案）について

（資料 1「地河南町認定こども園等整備基本計画（案）」について、森田総合政策部長が説明。）

○案件（2）第 2 期河南町立小学校適正配置基本計画（案）について

（資料 2「第 2 期河南町立小学校適正配置基本計画（案）」について、森田総合政策部長が説明。）

4 質疑等

（内堀委員長職務代理者）

パターンのところ、現実的に今後の地域コミュニティがあるとかないとかいう記載文があるが、具体的にどういうことを想定されているのか。

（森田総合政策部長）

地域コミュニティという表現をしておりますけれども、地域のつながりが元々 4 つの村ですか

ら、一つ一つの村のつながりがすごくあったと思う。それが合併して、融和をして、つながりが出てきているが、やはり元々の「村」というか、そのつながりというのは目に見えない強いものがあるんじゃないかと。5つの地区に各地区があり区長さんを置いていらして地域コミュニティができて、その一つ上に校区単位がある。防災面でも、地区の地域の自主防災組織、これも元々の校区単位でできつつある。

石川と大宝が統合して近つ飛鳥小学校になったが、地域のコミュニティは元々の石川というのは石川地域で残しているし、大宝は大宝地域で残している。

融和というのは必要だが、今後もそのような状況で進めていく方が地域として成り立って行くのではないかとというようなことが地域コミュニティという形で考えている。

(内堀委員長職務代理者)

そういう意味で言えば、「地域コミュニティ」という言葉は使えないんじゃないですか。というのは、石川校区と大宝校区があって石川と大宝が統合し、近つ飛鳥小学校という新設校ができました。でも、地域コミュニティというのはそれぞれ別々ですよ。だから、それを適さないと考えるという言葉はここに入れるのは不自然だと僕は思います。石川だって一緒じゃないかと質問されたら、石川はコミュニティ、組織は全て別だし、一方で何で白木は別じゃないの？と言われたら一緒でしょ。

だから、近つ飛鳥とくくってるけど、現実には大宝校区と石川校区は別ではないか。それを白木地区あるいは中村地区が近つ飛鳥小学校に行くのは地域コミュニティが合わないといいうのは言えないんじゃないですか。石川は行ってるじゃないですか。

ということは、そういう理由はここには好ましくないんじゃないかなと僕は思います。まあ、今現在それが何もなかったらですよ、近つ飛鳥小学校というもとに大宝地区、石川地区が例えば地域コミュニティも全てが一つに校区とともにあったところ、違う校区の地域コミュニティがまた統合してくるということが、それはあまり望ましくないんじゃないかということは言えるとは思いますが、今現に統合している近つ飛鳥で既に違う訳ですよ。大宝校区と昔の大宝校区、昔の石川校区で全然防災も違えば、極端な話、あんまり僕ら地域の人間としては、何とか小学校が一つになったんだし何とか地域協定をしていこうというモラルとしての動きはしていますけども、現実まだそこまでは至ってないというのを、理由にあげるのはあまり思わないかなと思います。

(土井委員)

このパターンを良しとする、それをサポートする理由としては貧弱だと。

(内堀委員長職務代理者)

最終的にはわかるんですよ。わかるけど、言葉としては、近つ飛鳥はそうじゃないじゃないかと、つつかれる部分になるのかなと。

だから、パターン①で行けとか、②のパターンで行けとか言っているのではなくて、言葉としてここにこの言葉を使うのは、現実そうじゃないものを棚に上げて、ここでこの言葉を使うのは良くないんじゃないかなと思います。

(武田町長)

そのご指摘は今初めて受けました。8月5日にホームページにあげて。

(森田総合政策部長)

私の説明も悪かったかもわからないですけど、元々の地域のつながり強いところをまた一つ

にするということもあるので、逆に言えばその融和というものが必要になってくるのかなという、逆に一つ一つが固まっているというのが表現悪かったかなと。

(内堀委員長職務代理者)

それも今度は河内小学校のほとんどの家庭が、いわゆる近つで言えば大宝みたいな地区です。昔の河内の人達がたくさん集まっている訳じゃなくて、ほとんど大宝に近い形のところで、先程説明でおっしゃった白木と中村とが行く訳だから、基本的にスタイルとしては近つ飛鳥と一緒にですね。傍目には何ら変わらないです。

地区が増えるだけというのがあるので。今更かもしれないけど、この言葉は僕は適さないと思いますね。何か違う表現に変えたほうがいいかなと。地理的に近いと書いてあるけど、河内小学校と出屋敷なんて全然近くない。

言い出したらきりがありませんよ。白木と近つ飛鳥は遠いと書いてあるけど、白木から神山行く方が遠いですよ。

(武田町長)

近つ飛鳥の4丁目からちょっと下へ下りたら、平岩から真っ直ぐ野道を行ったらもう大宝です。

(内堀委員長職務代理者)

遠回りだとかいろいろ書いているけど、言葉悪いけど、こじつけにしか聞こえないからちょっと説得力に欠けるじゃないかなという気はするんです。思いは一緒ですよ。思いは一緒だけど。

(武田町長)

これから、説明をずっとキャラバンでやりますけれども、そういうご意見が出たときには、理論が必要。

違うデータなんですけど、もし統合がなかったらという視点です。近つ飛鳥小学校がなかったら、昔の石川小学校、昔の大宝小学校の人数がこの十年間でどう動いたかということにやっぱり興味があります。

今それを拾いつつあるんですけど、トータルで河南町の子どもは、11年目に79%に減っているんです。議論し始めた19年からずっととってまして、一番古いのは18年の5月1日、ちょうど11年前ですかね、そのデータとそこから毎年5月1日に拾っているんです。それを比較したら河南町の子どもは79%落ちているんです。他の市、例えば一番ひどい富田林市68%、河内長野市は70%、松原市は72%。うちのこどもはまだ減ってない。うちは79%ですから。羽曳野は78%これはうちとよく似ている。太子は70%、千早は77%。

こども園も含めた0歳から11歳まで12年間を、これからのこども達のためにどういうスタイルが良いのか議論しているんです。これができたら多分ダントツだという気がいたします。何が何でも親切に説明をして、地域に理解をしてもらいたい。

議会に最初に説明したとき、教育委員会はどうなんだって言うておられました。教育委員会はオーケーしているのかと。

(内堀委員長職務代理者)

教育委員会としては、「望ましい」と。それは、適正基本計画の案を出している訳だから、我々の意見は基本的には望ましい。

(武田町長)

今の南の3校を一つにしようという動きの議論を始めた、石川と大宝のあの十年前に始めたのと全く同じ。

(内堀委員長職務代理者)

石川の場合は、バスを出すことで一気に反対ではなくなりましたよね。「えっ、バス出るの？」という感じで。

(武田町長)

石川・大宝の真ん中につくれという議論あったじゃないですか。

(内堀委員長職務代理者)

歴史たどりましたよね。大宝ネオポリスというのは、大宝小学校をつくっているところが元々半分、真ん中だったんですね、当初の計画は。あれが中心でさらにまだ向こうにつくる予定だったのが、古墳とかの発掘とかいろいろ問題が出て、たまたま上になっただけだという話もその時初めて聞いたんです。石川統合のときに。

(土井委員)

あのあそこが中心だったんですね。店もあの辺に固まってる。いろんな店があそこに固まっている。

(内堀委員長職務代理者)

何であんな上まで行かないといけないのと思いましたよ。正直ね。

(土井委員)

跡地利用のところで、河内はもちろん基幹校になる。中村はこども園になる。白木に関しては一応こういう考えだという話がありますけども、具体的な話がない。白木地区は中学校なり町の施設、公的な施設があるんですけれども、地域の例えば区長さんとか地域の人から何か具体的な意見は出ませんでしたでしょうか。

(森田総合政策部長)

この間も区長さん方と話をしたんですけども、逆に「何にしてくれるんだ」というそっちの方が多くて、やはり地域として地域が活用することはしんどいと。やっぱり公共である程度案を出してほしいというような意見が大勢。

白木の方々への説明についても、やはり全体として子どもの教育環境とかそういう面からすると、こういう選択というのはやむを得ない選択だなと。しかし白木小学校がどうなるかというのはすごく関心が高いので、そっちの分については行政の方から案を出してほしいというような雰囲気です。

(土井委員)

具体的なお話は向こうのサイドからは出ないですか。

(森田総合政策部長)

出ないです。

(武田町長)

住民の人は、法律だとか周りの地方創生の動きだとか、あるいは今どのエリアも人口減で、ごく一部、東京それから大阪の田尻とかごく一部だけは人口が増えていますけども沖縄も含めて、そのうち減っていくでしょう。そういうことに対して各自治体は何をしているのかということも我々は情報として持っていますけれど、地域の方にそういう情報はほとんどないと思います。そういう中で、じゃあどういふふうに活用するかアイデアを出してくださいというのは非常に厳しい。

私は原案はやっぱり役場で出したい。その中で原案を地域と議論して、白木方がこれだったら

というのを優先順位をつけて、最終、町のお金を使う訳ですから議会にかけて行かないといけないし、そういうふうなステップで。

アイデアとしては、前から私も白木小学校を資料館にと。河南町は古墳を含めいろんな発掘物がある。そのうち良いものは国立に持って行ってしまうし、二番目に良いものは近つ飛鳥博物館に持って行ってしまうと、どれだけ良いものが残っているかは別にして、それに日の目を見させる。それから、古い文化農機具なんかを展示する。あるいは防災、大きな津波が来なくても震度7が例えば2回きたら家屋も倒れるだろうし、そうしたら仮設を考える。仮設の土地はあの周辺にはありますから、そういう準備。あるいは、備蓄。それからドクターヘリのためにヘリポートをつくる。そういう話をする、近所の人、それは目を輝かせますよ。例えば、ドクターヘリのヘリポートをつくったら、白木地区の人は安全が担保される訳ですよ。亡くなる失う命を救う例をいくつか出したら、「それはいいな」と、なる訳ですよ。

(土井委員)

個人的な希望ですけど、前に町長にもお話ししましたがけれども、教育委員会の方でああいう古墳群がいっぱい発掘していたのは、今、旧の河内幼稚園へ放り込んだ。よく言えば保存している。それで、以前、あれをなんとかみんなが目に見えるようなところにちょっとずつでもいいから、例えばここのロビーとかでもいいから、ちょっとずつでも形になっているものは展示したらどうだろうということを何度も言っていたんだけど、できればものすごい風呂敷を広げたら、総合文化会館みたいな、あるいは総合資料館みたいな。

ここにそういうことが含まれているかどうかは知りませんが、それは非常に有難いと思いますのと、もう一つは、ここ5年くらい前から白木小学校に環境教育でずっと関わりをして、僕ら講義に行っているんです。私らが作っているボランティア団体で入り込んでいます。白木小学校は数年前から修学旅行もその一環で、絶滅危惧種を一生懸命飼っているところへ見学に行ったり、そういうふうなことをしているんです。我々がやっているのは、カワバタモロコといって絶滅危惧種ですけど、それを象徴にして、白木小学校に保存池を作ってもらってそこで増やしているんです。これは、いくら同じカワバタモロコやと言っても、外へ自然状態のところへ流せないで、ずっとそこで保存しているんですけど。例えばの話、それだけじゃないと思うんですけど、特に山の辺のところは自然環境がものすごく豊かなので、できるだけそういうものを残すような形で検討してもらえたら非常に有難いと思います。

非常に古い話ですけど、昔1億円ずつ各自治体に配られたことがありましたね。あの時にアンケート調査が住民にありましたでしょう。これを何に使うべきか。僕は変人やと思われたかもしれないけど、今のままで置いておくためそれをにそれを使って下さいという意見を確か書いたと思う。全部をそうするなんて当然それは無理な話なので、どこかそういう場所を町内で残していけたらいいなと個人的に思います

(森田総合政策部長)

学校の統合というのは、全国いろんなところでありまして、当然ながら2つが一つになったりとか、3つが一つになったりとか、そういうような事例があります。そうすると、2つが一つになったら一つが残るので、どういうふうに活用するのか、活用の仕方をちょっといろいろ調べて、うまく活用されているところを調べています。いろんな活用があり、民間で活用していて地域に貢献できるようなものもあるし、行政が活用して行政サービスの一部と、地域が使って地域のためになるような何かをやっているところもありますし、廃校したところにレストランを開いてや

っているところも、田舎の分校とかだったらあるみたいですし、いろいろ調べているんですけど、その中で、白木でどのようなものが合っているのかなというのを含めて、当然そういうようなものを残していくというのも一つのアイデアになるのかなと思います。

(安居委員長)

跡地利用の件で先程から少し話が出ていると思いますけれども、その前にこの計画が本当に以前から地道に計画を立てていって、今回は幼稚園・保育所とそれから小学校の統合というところ辺りの絡みから、地道に住民を説得できるような、一つ一つ説得力の高い内容になっているなど。長い間皆さん苦しみ考えぬいてきた結集じゃないかなというのをすごく感じております。それから、そろそろ、もう区長会や各幼稚園、保育所の方での説明会・意見も、まあ今年スタートしておるようで、どういう状況なのかなというのが一番気になっていたところだったんですが、まあ、ちょっとほっとしたような・・・みなさんの住民への浸透力というか、やはりその部分がすごく年々出来ていったという辺りで、大変なことは大変なんですけれども、やっぱり保護者の意見をよく聞いて進めましょうという前向きな意見が出ているということ、少しちょっと第一段階として安堵感を持ったというような気分でおります。

あとはこれからの問題かなとは思いますが、いろいろと壁にぶち当たることもあるかなと思うんですけれども、先程もこの中でもやっぱり拾っていけば、追求される箇所が出てくると思うんです。そのときに先程もおっしゃっていましたように、住民に親切な説明、分かるようにやっていくことによって、より理解が深まるんじゃないかなと思いますし、この素晴らしい計画を是非とも実現できるべくみんなで頑張っていけたらなというふうに考えております。

それと、計画の中でこども園がこの町の中で2つ出来上がっていくわけなんですけれども、出来上がったら出来上がったで、北と南の切磋琢磨じゃないけど、今でもいろいろ問題指摘されているところがあると思うんですけれども、その辺りがうまくやっていけるのかというのが、すごく心配とか不安とかはあるんですけれども。しっかりとやっぱり公立園として頑張って、南のこども園化に向けてバックアップをしていただきたい。住民さんも一緒に取り組んでいけるように負けないでやってほしいなと、私の思いとしてはそんなふうに考えております。ずっと幼稚園、保育所から、幼稚園、小学校、中学校までの一連のこの流れというのは、すごく評価されるんじゃないかなというのをすごく感じております。

あと小学校の跡地利用とのいうのを言いかけていたんですけども、全面読んでいるんですけど、かなん幼稚園が今後、南のこども園に移動しますが、跡地利用というのをどのように考えておられるのか。中央保育所は防災の基地のような、そのようなこともちょっと聞いておりましたですけど、その辺り。河内は、もう小学校に提供という形に。もちろんどんどん工事も進めていかないといけない状況だと思うんですけれども、その辺りもちょっと教えてください。

(森田総合政策部長)

こども園のことから、形と言うのか「側」と言うか。生まれてから中学校卒業までの構図をだいたいこの「側」で示している訳ですけど、これはあくまで「側」ですので、そういう施設整備については町の方も力をいれていくんですけれども、それに対してソフト的な支援策は、子育て、教育、それから町に住んでもらうと、人口も今の状況では減っていくしかないの、それをどこまでキープというか、留めるというか、そういうふうな施策も当然やっていかなくてははいけません。

ハードの形づくりと枠組み作りとそういうソフト施策とうまくマッチングした形で進めていく

必要があるとは町長もずっとおっしゃっています。

これはあくまで個人的ですけども、今は中学までしかないので、その上もちょっと飛びまして大学はあるんですけども、その飛んでるところもどうするのかというのをひとつ考えていてもいいのかなという気もしています。

次に、小学校、幼稚園の跡地についてなんですけども、公共施設の再編の基本的な計画となりますので、その中では、元々の役場を中心とする中央保育園、町民体育館、スポーツセンター、わかば作業所もあるんですけども、この一帯については町の中央なので防災的な位置付けで、何かあったときのために使うような形で考えていくというのが基本的な線です。その中で建物としてまだ使えるというか、まだできそうなのが中央保育園なんですね。中央保育園を防災的な備蓄品を入れるとか防災的な何かに活用するとかいうことは考えていくという感じが一つの案としてであると。

かなん幼稚園については市街化、大宝の真ん中にあるということで、ここでは地域コミュニティセンター等ということで、これはあくまで例示で書かせていただいています、ここも再編の中でどういうふうに活用していくかというのは考えていくと。これは地域住民の方の意見を聞かないといけない。それを聞いた上でどういうふうに活用するか、そのままで活用していけるようなものがあるのか全然違う形になるのか、それについても考えていくと。隣が公園ですので、公園と幼稚園と足して一区画ですか、どういうふうに活用するかというのを一つ考えて行けるかなと。今のところお話できるのはそのへんです。

(安居委員長)

防災に役立つような、そういうメリットをも踏まえたコミュニティセンターみたいなものを考えて頂くとありがたいかなと思います。

(武田町長)

大宝は結構、自主防災組織が早くフォーメーションが堅く組織出来ていて、備蓄品を少しずつ買い揃えたり、いざとなったら倒壊家屋に使えるような大型工具を買ったりされていますので、今食料を置く保管ストック場所を探されているんです。ですから、そういうことにも使えるように。それから、今の大宝公民館に関しては、フル回転してしまして予約がなかなか取れないと聞いているので、公民館の大宝第2号みたいなそういう使い方ができるのであれば、それは喜ばれるでしょうし。

それから、隣が公園なんで若干改装がいるかもしれないですけど、寄ってこられるときの駐車場があっても活用できる。大宝地区に今二千戸弱ありますので、大宝地区に使ってもらったら、向こうは高齢化率が非常に高いですけど元気な高齢者がいっぱいいらっしゃるんで、いろいろ工夫してやっていただけるというふうに思っております。そんな話をし出したら、誰かまた一人二人、「幼稚園は残しておいたらいい。」とまた言い出しておられるんですね。それは、「いや、あかん。小学校は統合しているのに幼稚園残されへん。」と私も言っているんですけど。やっぱり子どもの価値というのは、保育園つくると言えば各地域が反対して保育園を建たせないというエリアがあれば、今大宝が空き家に三世が戻りつつあるんですね。大きな土地を半分に割って、出て行った子供達が帰ってきたというそういうちょっと動きがあるんです。その子たちはエリアの宝だという発想をされている方も何人かいらっしゃいます。まあ、それは今後の調整で進むだろうと思っています。

それから、高校は森田部長が言っていましたけど、白木にかつて東大谷を私は連れてこようと

思ったことがあります。東大谷は泉ヶ丘に移転しましたが、もともとは東大谷と大谷高校がありまして、両並びですね、片方大谷が古いので、東大谷を出して大谷を東大谷に移して、大谷を建て替えるという計画があつて、そのときに東大谷は小さいから河南町へ来ようかと言って、随分・・・まあ、それは、堺と比べたら負けますわ。元々土地は向こうの方がはるかに高いんだけど、それくらいの財力は東大谷は持っていますので、負けました。そんなのが来ていたらね、もうちょっと交通の便があつたら、もうちょっと勝負できたのかなと思います。

(安居委員長)

白木は山の上ですので。昔から小学校の先生方とかも、民家の連なっているこの急な坂を登って行かないといけない。今までよく事故がなかったなど、過去にあったことはあつたんですけどね。その辺り考えると、そこに行き着くまでの、まあ今までは小学校の職員とかPTAの方とかも慣れてやっぱりやっていく、これがもし、またいろんな渦中の中で高齢者が行くとなったときにどんなふうにしていったらいいのかなというのが、先ほどの小学校の跡地利用の中で、どうなのかなというのを感じている部分なんですけどね。

(武田町長)

今の生コン屋さんからのね、ゆるやかなスロープで、大きな道で大型バスが上まで上がるぐらいのね、そういう道は

(安居委員長)

そう、はい。考えていただけたら、跡地利用もスムーズにいくかなと。民家の前は非常に苦情も多いし。

(武田町長)

ただ、お墓がありますので、あんまりお墓のこととかは言えないけど。あれは民間は手を出しませんからね。

(内堀委員長職務代理者)

現実的なこと。多分保護者から出るだろうと思うことをちょっと敢えて言っておきます。一応、僕も当時の当事者でもありましたので。

近つ飛鳥で初代の会長をさせてもらったときに、子どもたちがバスで行くということがあつたので全く意識してなかったんです。こどもたちがそれで行ってくれたら通学は安全だというのがあつて。

運動会のときに初めて出たのが、「私らどうやって行ったらいいですか。」という保護者が。そういう問題があつて、懇談会とかのときは学校の中に入れさせてもらえるようになって、今も多分卒業式とか入学式のときはグラウンドの中に入れてもらっている。ところが運動会は、石川と大宝と一緒にしたのでいっぱいいっぱいなんです。それで、そのときは確か公民館を借りてくれていると思うんです。

おそらく、河内もどんなに考えても運動会のときに校庭に車を停めるという訳にはいかない。かと言ってほとんどの人が下から上る訳だから、まずバスが出ない限りは自家用車で行きたいと言われるといたら。

(新田教育長)

先ほど、総務常任委員会があつて、同じような話をやっていました。なぜ、統合の基幹校を中村ではなくて河内小学校にしたのか。これは、中村がこども園として適しているのはもうわかっている話。河内を小学校にしたその理由の一つには、総合グラウンドがありますので、運動会と

か大きな大会がある場合は、総合運動場を駐車場として活用することができます。

(内堀委員長職務代理者)

できるんですね。

(新田教育長)

そこに停めていただいて、あの間ちょっと歩いていただかないといけませんけども。

(内堀委員長職務代理者)

最初は、「ええ、あんなとこ歩くの？」と言われますよ。「公民館から歩くんやったら家から歩くのも変われへん。」とかね。よく言われました。

(新田教育長)

まあ、東山だったらそうですね。

(内堀委員長職務代理者)

でも、僕は歩いて行けるからあまり言われなくても。でも実際に停めておられるかどうかちょっと僕は見てないんですよ。

(新田教育長)

何人が居られると思います。歩いておられます。または大宝の保護者と仲良しで、「私とこの家の前で置いといたらええやん。」というような感じでね。

(内堀委員長職務代理者)

多分その質問は間違いなく出ると思います。「私らは学校に行くときはどうやって行ったらいいんですか？」というのは多分保護者からは出ると思います。

(新田教育長)

私が総合政策のときにそういう形になって、今、委員がおっしゃるように本当にどのような形態で停まっているのかなと、違法に駐車されているのかなと思って、運動会のときに大宝の中を回ってみたんですが違法駐車ほとんどされてない。

(内堀委員長職務代理者)

それはどこの話ですか？

(新田教育長)

近つ飛鳥。

(内堀委員長職務代理者)

それはそうですよ。「警察に通報する」と言っ、僕らのときやったんです。全部ややこしいもめ事に巻き込まれるからと。違法駐車は全部警察に言え、と言っ。そうしないと、変にすぐどけるからという余計にもめるんですよ。運動会中に回りましたから。

(新田教育長)

その話は聞いていましたのでね。公民館のところには何人かは停めておられました。今回は特に校区が広がるので。障がい者の方とか高齢者の方が10台20台くらいは停められる場所を確保しつつも、一般の方については、どうぞこちらの方でお願いしますという案内が必要です。

(内堀委員長職務代理者)

距離はあってもいいんですよ。どこか置ける場所というのを用意しないと、必ず保護者からは質問が出ると思いますよ。

(新田教育長)

そういう意味で中村小学校を小学校の基幹校とした場合は、そういう場所がちょっと確保でき

ないという話があります。

(内堀委員長職務代理者)

それも一つの理由になりますよ。用意できているのとできていないのとでは全然違いますよ。

(新田教育長)

中村小学校はこども園にしたときは、石川保育園の例であるように、保護者の立会場所または職員の駐車場、こういうのは完全に確保したい。

(土井委員)

石川・大宝を統合したときに大掛かりなリフォームをしましたよね。おそらく今度も同じようになるとは思うんですが。このときに教育委員会の年度毎のところで本当はお願いすべきことなのかもわからないけれども、教育備品のことも、毎年度の学校にくるお金の予算の中でちょっと買いつらいとか、だけどこれ今欲しいなとかみたいなのがあったら、それに便乗してみたいなことになるけども、そういうこともちょっと考慮していただけたら。全部の小学校を見ているわけではないんですけど、中村と白木と河内は、理科関係しか知りませんが、正直言って貧弱です。中学校も正直言ったらすごい貧弱だと僕は思いますけども。

僕は退職するときに「計器を差し上げます。」と言ったんですが、欲しいと言わなかったんで、僕は生野高校へ全部ごそっと100万円くらいの単位の機械を何台か生野へあげました。僕の自分の研究費で買ったものですけど。もちろん、そんなものは小学校、中学校ではいらないけども、前に町長に話したことあるけど。でも古いのと種類が何種類か、それ多分昔買っておられるから、生徒の人数分ごそっと一回で買えないから、時期ずらして例えば5台ずつとかやっておられるから、時期ずれると形が変わってしまって違うタイプになっているんですね。

そういうのを、ちょっと考慮していただけたら非常に有難い。これは本来、年度毎に教育長にお願いすることなのかもしれないけど。

(内堀委員長職務代理者)

石川・大宝のときの僕らは、どっちかと言うと外部的な部分での問題解決を要求していたけど、中身は一切触れなかったけど、例えば統合することによって人数が増える、例えば机をこうしないといかん、この部屋をこうしないといかん、こういう形にしようというのは、それは統合委員会で議論したんですか。

(新田教育長)

それは教育委員会が責任をもって整理します。

(内堀委員長職務代理者)

学校の先生の意見とかも取り入れながら、

(新田教育長)

そう。取り入れながら、

(内堀委員長職務代理者)

今後も、例えば河内小学校を使うと決まった場合は、河内小学校にこれだけの人数が来る、こういうふうにしよう、ここはこういうふうにしようというのも、学校の先生の意見も聞きながら予算を取っていく。

(新田教育長)

そうですね。統合委員会では、先程例に出たように通学カバンや制服をどうするのか、体操服をどうするのかということも達の持ち物、学用品については教員の方で決めていくと思います。

土井委員がおっしゃるように、統合が決して財政出動を抑制するためという意味ではないんですけども、小学校の数が減るということは、そこに充実した予算配分をこれからお願いできるということになりますので、施設・設備とも中身も含めて充実を進めるように町長部局と協議させてもらいます。

(行待委員)

保護者としては一日も早く統合してもらいたいという意見の方が多いじゃないですか。私の周りも実際そういう保護者の方が多いです。だから、近つ飛鳥と石川が統合したときに、ほぼ中村小学校の保護者のほうは、「次、じゃあ私達やね」という感じで、ある程度覚悟はしていたと思うんですね。で、いつそういう話が教育委員会から下りてくるんだろうというのが一番みんなの関心事で、統合するときに私達の意見いつから言わせてもらえるんだろうという、それがやはり一番の関心だったので、早く保護者説明会をしてもらって、時間をかけて説明してもらおうのが一番だと思います。

どういうふうに統合するのか、すごくみんな不安でいっぱいだと思うんです。単学級がすごくいやなんですね、各学年。子ども達にとってもチャンスも少なくなるし、いろんな友達と接する機会もなくなって、子ども達が成長していく中でマイナス面がすごく多いというのが実感です。それはみんなわかっていると思うので。友達も固まってしまいますし、人間関係も固まってしまいますし。

(内堀委員)

少人数は良いんですよ。でも統合してみて・・・

(行待委員)

統合してもまだ大規模校ではないんですね。小規模の学校なんで。

(内堀委員長職務代理者)

でも、ぼくらはぼくらで前向きに、当時の大宝小学校の PTA の会長さんらとも別で会って、大宝はどうなんですか？ここ、こうですか？という連携は取っていましたよ。知らないところで僕らは僕らで。だから、当然保護者の方々もアドバイスじゃないですけど、やっぱり現保護者会だけの話じゃなくて、各 PTA で出てるような問題とかをまとめて、意見として行政に出してみても、その回答をまた議論するとかいうのもやっぱり必要やと思いますよ。勝手にするやろと思っているよりは、逆にされるという前提でいけば、前向きにどんどん意見を出していつてもらって、乗れる話は行政に乗っていつてもらおうということで、やっぱり一緒に前を向いたより良い学校に統合校はしていくというふうに捉えてもらおうべく動きをした方が絶対得だと思います。

(新田教育長)

そういうことで、保護者説明会の段取りを。

(久保教・育部長)

今、中村と白木と河内地区の PTA の役員さんと、学校で調整してもらっています。

(内堀委員長職務代理者)

学校で保護者説明会を先にすることですね。

(久保教・育部長)

保護者説明会というよりも、学校で体育館をお借りして PTA を中心にチラシを配りまして、そこに住民さんも入ってきていただいても構わないというようなスタンスで日程調整させてもらっています。

(内堀委員長職務代理者)

来年1年に入ってくるお母さんとかに僕らは出したというか。

(久保教・育部長)

PRの方法として、広報の折込で日程の方を周知しようと思っていますので、それは全世帯に入りますので。

(内堀委員長職務代理者)

その地域の本来なら中村小学校に来る、あるいは白木小学校に入るという園児ないし保育所、その保護者にも確か案内を出してくれと言って・・・

(新田教育長)

幼稚園の説明会に行っても、今度小学校の制服どうなんですかというのは、もうそういう次のお母さんの意見だと思います。できるだけ「そんなん知らなかった」というふうにならないように、PRの方も。

(森田総合政策部長)

二重に・・・広報でみんなに配って、学校は学校で持って帰ってもらったかな、子どもに。二重に配るので、多分同じ家に2通来るかもわからない。そんなぐらいまでして・・・合同で1回目はそれでさせてもらいたいなと。

(内堀委員長職務代理者)

納得のいく説明をしていただければ。

5 閉会

(武田町長)

では、今日の会議を締めさせていただきます。ありがとうございました。

(一同)

ありがとうございました。